

県肝疾患診療連携拠点病院
山口大学医学部附属病院 肝疾患センター主催

平成21年度 肝疾患研修会 開催報告

山口大学医学部附属病院
肝疾患センター事務局
田村 怜子

山口大学医学部附属病院は、平成21年2月に山口県より「山口県肝疾患診療連携拠点病院」に指定されました。それに伴い、肝疾患の診察・治療のために、医師・看護師・薬剤師さらに山口県内の医療機関等が互いに連携し、県内の肝疾患診療の均てん化を促進する組織として、平成21年10月に肝疾患センターが設立されました。

平成22年2月10日（水）に肝疾患センターでは、宇部全日空ホテルにて平成21年度肝疾患研修会を開催しました。この研修会は、県内で肝疾患診療に携わる方を対象として、県内の肝疾患診療に関する情報の共有を図ることを目的として開催されました。平日の夜の開催でしたが、院外の医師や看護師の方々の他にも、附属病院の職員も多数参加して頂き、約150名が受講されました。

坂井田 功肝疾患センター長の開会の挨拶で会が開始され、第一部では「肝疾患対策に対する山口県での取組み」として、寺井 崇二副肝疾患センター長を司会として、県（行政）・医師・看護師という、それぞれの立場から、肝疾患診療の現状報告の講演が行われました。山口県健康増進課の清水 恭子先生からインターフェロン助成制度について、医師の立場からは本院の消化器病態内科学の石川 剛先生から肝炎の標準的治療について、看護師の立場からは本院看護部の邑田 真紀子先生から「肝炎・免疫センター看護師研修会」の報告について、それぞれ話がありました。今後、行政、医療現場の連絡をスムーズに行うための研修会になったと考えています。引き続き、ホームページ等を通じて情報発信をしていくこと、また肝炎パスポート等を使用し、専門機関とかかりつけ医の連携を進めることが確認されました。

第二部では、「肝炎治療の未来」として坂井田 功肝疾患センター長を司会として、国立国際医療センター 肝炎・免疫研究センター長の溝上 雅史先生をお迎えして、特別講演を行いました。溝上先生は、肝炎治療に関して国内で最先端をいかれる先生です。この度は、「新しい肝炎総合対策」と題して、過去の肝疾患の各施策の歴史的背景、今後の肝炎対策に関する国の方針や最新の肝炎治療に関しての情報について、丁寧に解説していただきました。

最後に武藤 正彦診療連携室長より、山口大学医学部附属病院として、さらに積極的に肝疾患に関する診療連携について、診療連携の推進をしていきたいとの説明があり終了いたしました。

県内の医療機関の方々に研修会を受講して頂き、誠にありがとうございます。今回の研修会は、肝疾患診療に関する情報の共有ができたと共に、情報交換の場ともなりました。

肝疾患センターでは、これからも医療従事者や市民の方々に向けた研修会を計画していきますので、多数の皆様の参加をお待ちしております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

《研修会風景》

